

## ◎不登校児の支援を行っている事例

(教育委員会)

- ・別室における学校生活支援
- ・教育支援センター

(支援学校)

- ・放課後の短時間登校を設定（感覚の過敏性）
- ・登校時間、滞在時間 過ごす場所の調整
- ・S S Wの活用（特別支援学校では継続的な活用は難しい）

(障害福祉課)

- ・障害福祉サービスにおいてはケースバイケースで現在は対応している。

(放課後等デイサービス)

- ・日中一時支援で不登校支援を行っています。学校とご家族と連携をし、少しずつ学校に行けるように初めは先生に会いに行く程度にし、先生とタッチやシールを貼って帰ることを行い、15分30分と時間を伸ばして学校にいる時間を長くしていった。

(放課後等デイサービス)

- ・平日の提供時間 13:00～受け入れ。学習面に遅れがでないように、と心のケアのサポートを行う。以前に5名ほど受けており、3名が学校に無事に通えるようになった。

(放課後等デイサービス)

- ・平日の提供時間 13:00～受け入れを行い、他のこどもたちが集まるまで学習面を特に遅れが出ないようにサポート
- ・また、様子を伺いながらヒアリングを行いメンタルケアも行う。

(放課後等デイサービス)

- ・昨年度は午前中からの放デイ利用の方が数人おられましたが、数名卒業され、今年度は不登校の方も午後の枠（13:30～14:30又は15:00～16:00）でご利用いただいています。学習面のフォローをどのようにしていくか（塾や家庭教師の活動など）を親御さんと話をしています。又、地域の適応指導教室に午前中行かれている方もいらっしゃいますが、今後の進路や社会に出た時の為に規則正しい生活や家でできることなどは教えています。LDがある場合はLDの学習支援を行う場合もあります。

(児童発達支援)

- ・幼稚園・保育園の行き渋り対応について  
児発を多めに利用していただき、行き渋りの原因を見つけ保育園、幼稚園の先生と連携を取り、問題解決を具体的に考え支援していく。

(放課後等デイサービス)

- ・給食が苦手、人が多いところが苦手、朝が起きられない、登校下校に親が付き添いをしている。小学校には行けていないが放課後等デイサービスには行きたい児童を受け入れています。

(放課後等デイサービス)

- ・兄弟で登校できていない子供がいます。それぞれに行けない理由が違います。自宅だけにならないよう曜日を決めて事業所で過ごし、他児童と関わるよう支援をしたり、外出をし社会に出る経験を支援している。

(放課後等デイサービス)

- ・女子中学生。男子生徒とのトラブルがきっかけで不登校となる。ご家族、学校、スクールソーシャルワーカー、相談支援、放課後等デイサービスで連携しながら、今後の調整を行っている。

(放課後等デイサービス)

- ・家庭連携支援を行っています。

(放課後等デイサービス)

- ・現在、あまり学校に行けていない子（行けていなかった子）があり、保護者様や各関係機関と定期的な連絡を取り、横のつながりを持ち、事業所の方でも対応可能な限りしていく形をとろうと思っっています

(放課後等デイサービス)

- ・少人数での活動に参加される中、周囲の雰囲気になじめなかった児童様（学校に行けたり行けなかったりされています。）への対応として、陶芸教室への参加を促しました。陶芸教室は指導訓練室から少し離れた場所にあるため、声が少しだけ聞こえる程度なので静かな環境を提供する事ができています。又、指導員においても陶芸を教えてきた経験のある先生が担当している為、本格的に陶芸を経験することが可能となっています。実際に陶芸教室に変更された児童様は陶芸教室には休まれることなく参加することができ、定期的に自宅以外の場所で過ごすことができました。その結果、学校への登校ができるようになったり、陶芸教室内だけでなく、事業所に他児童様との活動を行うことができるようにもなられてきています。

(放課後等デイサービス)

- ・小2から小学校に行けなくなってしまっていたお子様を最初学校に行けた時しか預かってなかったが、それではご家庭にもご本人にとっても良くないのでは？という話を保護者様、相談員さん、ソーシャルワーカーさん、学校と話をし不登校でも利用できるように行政と話をしていいます。学校に行かなくても「放デイで全部できるからいいか」とならないように午前中は学校側から課題など出してもらい学校とのつながりを完全になくすことはせず午前からお預かりさせていただいている

(放課後等デイサービス)

- ・現在不登校児は1名。利用を促し、何度か利用しましたが、今は学校に行けた日のみ利用となっています。

(放課後等デイサービス)

- ・学校との連携と保護者支援

(放課後等デイサービス)

- ・不定期ですが、不登校児の支援を土日や長期休暇を中心にを行っています。普段自宅で過ごす時間が長い分スタッフや他児童との交流を通して社会性や協調性を身に付けてもらえるような支援ができるように心がけています。また、保護者に対して利用目的以外にも定期的に連絡を取り児童の様子や困りごと等ヒアリングし、家庭の負担軽減の一助になればと思っています。

## ◎不登校児の支援についての意見

(放課後等デイサービス)

- ・具体的にどのような支援方法が有効なのかわからない。(居場所を提供するだけにならないか)
- ・保護者との連携はもちろん必要だが、学校との連携も必要だと思う。

(支援学校)

- ・義務教育から次のステップに繋げることが難しいです。

(放課後等デイサービス)

- ・子供というよりも家庭環境や学校での環境の問題がウエイトを占めている印象。運の要素も多く、いつだれが不登校になってもおかしくない。今はたくさんの選択肢がある時代、本人合った生きる道を探すこと。その為の力をつけることが重要だと考える。

(放課後等デイサービス)

- ・急な不登校の場合、フリースクールや行く場所がないお子さんも多い。提供形態「2」(休日扱い)で承認して頂けたら、受け入れがしやすい。

(放課後等デイサービス)

- ・子が一時期不登校当事者であったため、保護者の気持ちがよくわかる。周りの大人が子供の気持ちに理解を示し、焦らせないこと、子供と保護者の将来への不安に対しては支援者が傾聴し、見守っていることが伝わることで子供とその保護者は安心感を得ることができる。学校での先生からのサポートは必要不可欠である。又、保護者はさまざまな情報を欲していると思われる。

(放課後等デイサービス)

- ・適応指導教室ではあまり学習はできていないように話を聞くのでそちらでももっと学習の機会が確保出来たらよいと思います。放デイの中で勉強を教えることは法律で求められておらず悩んでいます。皆、学習でつまづき学校に行けなくなっているように感じます。

(放課後等デイサービス)

- ・不登校児の受け皿として放デイが大変役に立つならば進んで利用してほしい。行政、障害者支援の窓口でも相談の折りに紹介していただくとよい。

(障害福祉課)

- ・教育機関、病院、障害福祉サービスの連携が重要。障害福祉サービスを利用しながら、不登校を解消できるよう、ゴールを決めた支援が必要。

(放課後等デイサービス)

- ・不登校になった理由にもよりますが、人に会う機会、家から出るという目的の為に利用促す。放デイが息抜き(本人にとっても保護者にとっても)となれるように声かけする。

(放課後等デイサービス)

- ・いつか学校に行ける日があるかもしれない。嫌な場所にならないようゆっくり時間をかけたほうがいい。

(放課後等デイサービス)

- ・画一的な対応にとらわれすぎず、長期かつ多角的な視点で支援を行っていく必要があるのではないかと考えます

(放課後等デイサービス )

- ・各関係機関様との話の中で、朝から受け入れ可能な場所との連絡を取り、当事業所だけでなく様々な場所と一緒に不登校児の支援に当れる環境を作って行けたらと考えています。ただスタッフ不足であったりも問題となっています。

(放課後等デイサービス)

- ・登校できない児童様へのアプローチ方法を増やすことで定期的に自宅以外の場所で時間を過ごしたり、自信につながる活動や、自立の一步を踏み出せる活動が増やせたらと考えています。

(放課後等デイサービス)

- ・学校に行かないと放デイを利用できないというのは家族にとっても本人にとっても気持ちの面などで良くないのではと思う。子供たちの居場所に放デイがなれているのであれば不登校でももっと使えるようになっていいと思う。ただ学校に行く事がすべてではないが学校では人と人が触れ合ういい場所だと思うので学校との距離が空かないように行けるのであれば行けるように進めて行ければいいのかなと思う。

(放課後等デイサービス)

- ・学校のあっている時間帯での利用も基本的には認めていただきたい。又、不登校児が自宅や訪デイなどで学べるよう zoom 等活用して授業を受ける機会を作ってほしい。地域によってはしているところがあるようだが全くないという地域もある。

(放課後等デイサービス)

- ・学校に戻す事、学校に行くことが支援の目的ではないと考えています。本人にとって、現在も将来も含めて、豊かな社会生活を送っていくために必要な支援を考え、居場所を作っていくことが大切だと考えています。

(放課後等デイサービス)

- ・今後も不登校児の放課後等デイサービス利用需要は増えていくと思います。そんな中で不登校児の受入れに対する法整備やガイダンスがしっかり定められていけばもっと円滑に支援を行うことができるようになると思います。